

県中学新人ハンドボール

ハンドボールの第10回浦添市長杯争奪・第41回県中学校新人大会最終日は18日、浦添市民体育館であり、男子決勝は浦西が延長の末26-23で美東を下し、5年ぶり8度目の優勝を飾った。女子決勝は港川が神森を25-22で破り、11年ぶり2度目の頂点に立った。男女の優勝校は、春の全国中学生選手権大会(3月26~29日・富山県)に出場する。

浦西男子 港川女子

を執り、浦城小時代に全国制覇を経験したメンバーら実力の高い選手がそろった。右45度の金城、右サイドの真座という左利き2人を擁するの強みだ。

港川が11年ぶりに女王の冠を手にした。後半に相手の猛攻に遭い、ひやりとする場面もあったがリードは

ハイライト

一度も許さなかった。主将の真座あすかは総合力の勝利に胸を張った。足を動かし、守備から速攻を展開するのが持ち味

だ。この日も前半は素早く1分で真座が倒れ込みながら圧力をかけて相手の攻撃を

らシュートを決め、土壇場で流れを引き戻した。徹底した走り込みが土台

にある。チーム最多の8得点を挙げた金城は「3-2の仲西で実績のある神加

と、目指す日本へ成長を誓った。(大城周子)

総合力で逃げ切る

港川



女子決勝・神森-港川 後半24分、24点目のシュートを決める港川の真座あすか(左)=18日、浦添市民体育館(花城太撮影)

わずかな勝機逃さず

浦西 気迫で延長戦制す

延長戦にもつれ込んだ男子決勝。最後は、相手の退場が数的優位に立った浦西が連続得点で熱戦に終止符を打った。試合終了のブザーが鳴ると、浦西の選手たちがコートへ送り出した。これはコートで跳びはね、抱き合って喜びを爆発させた。主将の井口元太は「積極的な攻撃を仕掛けた浦西の試合だったけど最後まで諦めずに来た」とうれし涙をにじませた。176センチの井口が高さを生かしたシュートを決めるなどして前半は5点をリードして折り返した。後半、相手は守備を高めに出すペースを乱し、じわじわと点数を詰められる。井口のシュートが決まらず苦しい展開の中、途中で左サイドからセンターに上がった比嘉麻人のカットインや



男子決勝・美東-浦西 優勝を決めて喜びを爆発させる浦西のメンバーたち

(大城周子)